小学校
支援学級

ヒントクイズをつくろう

柏原市立旭ヶ丘小学校

教科	自立活動	単元名	伝えたいことを言葉で表現しよう

本時のねらい

相手に伝えたい内容に応じた言葉を使って表現することができる。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

- カラーの挿絵を使って、学習課題に対して視覚的に支援する。
- 継続的なトレーニングの実施に伴い、自主的に取り組むことができる題材を提供する。
- 書く活動について、分量的に軽減を図る。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC　　・SKYMENU Class「発表ノート」

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （２５分）	○ビジョントレーニングをする。【写真１】 ・発表ノートにあるドットカードを使う。 ・スライドショーモードで、見てすぐに赤い球の数を数える。 ・動体視力トレーニングをする。 ・色の違いから異なるものを見つけて、マーキングで丸を指で書く。 ○語彙フラッシュカードに取り組む。 ・カードを見て、職業の名まえと内容を答える。 ○ヒントクイズに取り組む	・基本トレーニング用の発表ノートは、事前に配付しておく。 ・教師との取り組みではなく、継続的に自分でトレーニングができることを意識して支援する。 ・画面上で模様を注視することにより、集中力の向上を図る。 ・語彙力向上のためテーマごとにフラッシュカードを作成。挿絵をみて理解を深める。 ・視覚優位性による映像記憶により、語彙の定着を図る。 ・画像の活用により、言葉と図を効果的にリンクさせる。
展開 （１５分）	めあて「ヒントクイズをつくろう」 ○ヒントクイズを作る。【写真２】 ・自分についてのクイズを考える。 ・テーマの言葉を選ぶ。 ・ヒントの文面に適した言葉を○で囲んで選ぶ。 ・色、本数のわかるところは入力する。	・言葉のカードを活用することで、表現することが難しい言葉も自分で選択して表現しやすくする。 ・言葉の背景の色を変更することで、視覚的に支援する。 ・書く分量の軽減の為、選択した言葉を○で囲み直接入力する。
まとめ （５分）	○伝えたいことを言葉で表現できたか確認する。 ・自分の作った文章を読む。 ・クイズを出す相手を考える。【写真３】	・自分の考えた文章を手軽に見直したり、修正したりできる。 ・次回は、タブレットを操作しながら相手にクイズを出す。

１人１台端末を活用した活動の様子

【写真１】 タブレット PC を操作しながら、ビジョントレーニングをしている場面

【写真２】 言葉のカードを選びながらヒントクイズを作っている場面。

【写真３】 自分で作ったクイズを先生と楽しんいる場面。

児童生徒の反応や変容

- 継続してタブレット PC でトレーニングに取り組んだ結果、学習の導入に意欲的に取り組めるようになった。
- 緊張により積極的に発言や表現をすることが難しい様子もあったが、後日、自分で作ったクイズをほかの児童に出題することができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 児童の発達段階に応じてフラッシュカードの中身を更新してきたが、タブレット PC でデータ化し、整理、配付を行った。
- 複数児童で授業しているときには、それぞれの子どもたちが自分のペースでトレーニングを行うことができる。
- 教師が一斉実施する場合とは異なり、１ 人ひとりがそれぞれに合ったトレーニング活動を行うことができるので、今後も児童の特性や状態に合わせて新しい内容を検討していきたい。